

令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 城南 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和7年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思っております。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

(2) 質問調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

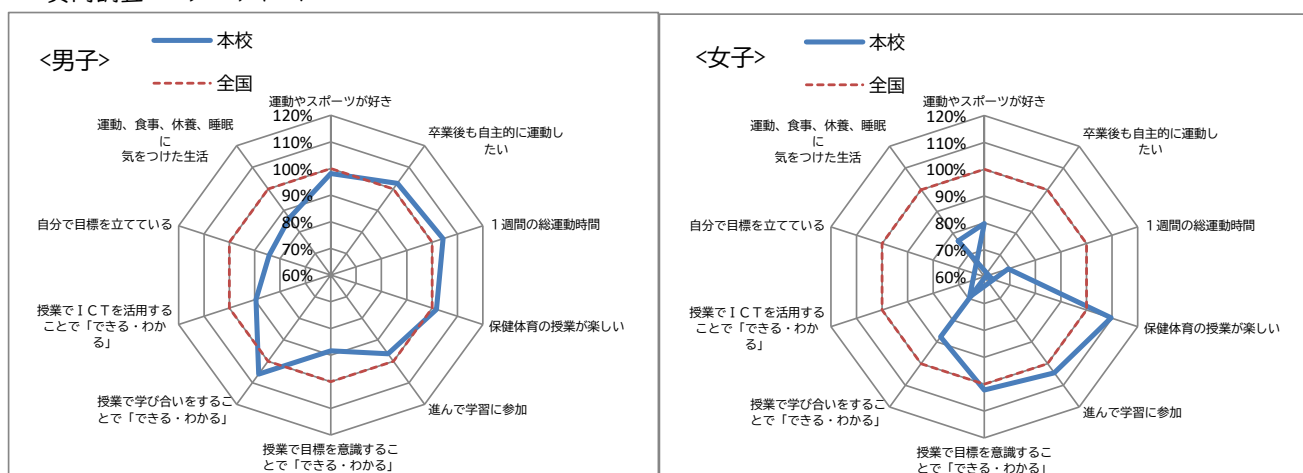
| 本年度の結果 | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 持久走 | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ハンドボール投げ | 体力合計点 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|--------|-----------|------|--------|----------|-------|
| 全国 | 28.95 | 26.09 | 45.12 | 51.64 | 409.25 | 78.82 | 8.00 | 197.51 | 20.74 | 42.2 |
| 本市 | 29.68 | 26.06 | 46.16 | 52.78 | 410.16 | 81.09 | 7.88 | 199.92 | 20.42 | 43.36 |
| 本校全国平均以上の種目 | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

<女子>

| 本年度の結果 | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 持久走 | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ハンドボール投げ | 体力合計点 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|--------|-----------|------|--------|----------|-------|
| 全国 | 23.15 | 21.70 | 46.99 | 45.74 | 309.66 | 50.60 | 8.97 | 166.44 | 12.43 | 47.58 |
| 本市 | 23.73 | 21.88 | 47.43 | 46.70 | 309.06 | 52.42 | 8.84 | 170.22 | 12.10 | 49.03 |
| 本校全国平均以上の種目 | ○ | | | | | | | | | |

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査レーダーチャート



質問調査の結果分析

男子については、多くの種目で全国平均と同程度、またはやや上回る結果となった。特に「保健体育の授業が楽しい」「授業で学び合いをすることで、できる・わかる」といった項目では前向きな回答が多く、日々の授業の積み重ねが成果として表れていると考えられる。一方、女子については、「保健体育の授業が楽しい」という回答は高いものの、「運動やスポーツが好き」「1週間の総運動時間」「卒業後も自主的に運動したい」といった項目では、全国平均を大幅に下回る傾向が見られた。今後は、運動への意欲を高められるような取組や、楽しさを実感できる活動の充実を図っていくことで、学校外でも自主的に運動に取り組んでいく生徒の育成を目指す。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

ニュースポーツを積極的に授業に取り入れ、生徒の興味関心を失わせないように工夫するなどして授業改善を図る。また、昨年度課題だった「学び合い活動」は今年度も継続して取り組み、生徒たちの自尊感情を高めていきたい。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

卒業後やプライベートにおいても運動に興味をもてるように生涯スポーツの紹介を行うとともに、朝自習のち時間や放課後の時間を活用し、誰でも簡単に楽しめる運動を実施する。